

02 特集

世界で輝く 大音の音楽

確かな伝統と
圧倒的な存在感で魅了

04 音楽と生きる

福里 大輔さん

(某面自由学園高等学校教諭・吹奏楽部顧問)

木村 由美さん

(スタインウェイ・ジャパン株式会社)

あなたの
好きな
曲は？



スマホを
かざすと
しゃべり
だす！

詳しくは
P15を
見てね

「ON-AR」

スマホで動画が見れる！？

CONTENTS

08 Concert Report

09 大音生リアル
練習時間 (音楽)編

10 NEWS Index

- ・研究室訪問
- ・Daion Report
- ・大音生なら必ず聴きたい「100曲」中村孝義 (音楽学・理事長)
- ・退任教員挨拶

13 キラリ★輝く
大音の星

・コンクール受賞 他

14 CAMPUS
Information

15 演奏会
Information
3月～6月

16 ・下手の考え
休むに似たり
～学長日記～
・教員ルーエッセイ
木村 寛仁
(ユーフォonium・准教授)

特集 確かな伝統と圧倒的な存在感で魅了

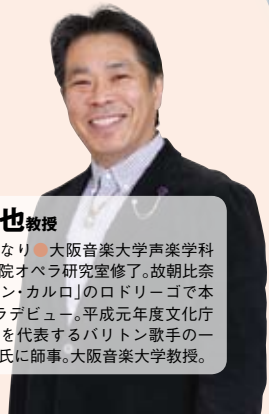
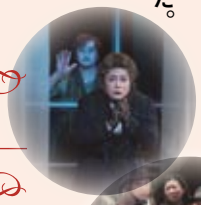
世界で輝く大音の音楽

2年連続で全日本学生音楽コンクール(全国大会)1位受賞者を輩出。これまでも世界レベルの人材を多数世に送り出してきた大音の音楽。なぜ優秀な学生が育つのか。魅力ある授業やレッスンについて同賞受賞者のレッスン担当教員でもある荒田祐子教授、田中由也教授にインタビューしました。

荒田祐子教授インタビュー
「たくさんさんの教員が一人の学生を育てる」
充実したカリキュラムと環境

田中由也教授インタビュー
個性豊かな環境で培われる
「大音音楽」の連帯感

音楽 田中 由也教授
たなか よしなり ●大阪音楽大学声楽学科卒業。同大学院オペラ研究室修了。故朝比奈隆指揮の「ドン・カルロ」のロドリゴで本格的なオペラデビュー。平成元年度文化庁研修生。関西を代表するバリトン歌手の一人。油井成行氏に師事。大阪音楽大学教授。



大音音楽のカリキュラムには大きな特徴があります。まず、演習系の授業が非常に充実していること。これは他大学と比較しても抜きん出ていると自慢できるところです。そして、レッスン担当教員以外にたくさんさんの教員から指導を受けられること。歌曲は「イタリア」「ドイツ」「フランス」「日本」と1年間で4カ国それぞれ専門の教員に教わることで、加えてオーディションを受けて特別研究の受講生になると、ほかの先生による専門の授業を

「歌が好き」。当たり前ですがまずはこれが大前提です。好きであれば「こう歌いたい」「こんな風に表現したい」という意欲が当然出てきます。「それならこの筋肉をこう使ったらいいよ」とか「口腔内をもっと広げて」などアドバイスができます。僕のレッスンはおおむねこのように感じて進んでいくので、学生にとっても、そしてもちろん僕にとってもものすごく楽しい。学生からも「私はこう思います」「こんな風に歌いたい」と意見をどんどん出してくれるから、お互いに腑に落ちると

いか目からウロコ状態(笑)。自分が頭で描いている表現の世界をこうしたら具現化できるのだ、という表情や体の使い方を教えています。さまざまな状況に押しつぶされそうになって歌うことが困難になってしまいうような学生に対しては、まずメンタルケアにかける時間を優先します。歌が大好きだからもっとステップアップしたい——少しでもこの気持ちがあれば、今置かれている環境を現実として受け止めさせ、弱っている部分にまるで軟膏を塗るように回

識します。そして大胆さと繊細さを併せ持つ表現を大切に指導しています。そのためには、学生一人ひとりの性格や特徴を感じ取って、「ここまでできる」と私が信じたレベルに達するまで絶対にあきらめないで教え続けること。時にはくじけそうになる学生を励まし続け、期待をかけて指導することで能力がどんどん引き出されていきます。成長していく学生たちの姿を確認できることは指導者として大きな喜びです。これからの期待を込めて教えていきたいと思っています。



音楽 荒田 祐子教授
あらた ゆうこ ●神戸女学院大学音楽学部卒業。オペラ「カルメン」「アイーダ」「蝶々夫人」他多数のオペラに出演。文化庁芸術家在外派遣研修員として渡伊。キャリア国際音楽コンクール第1位。大阪文化祭奨励賞、兵庫県芸術奨励賞受賞。関西歌劇団副理事長。

復させ、そこから引つ張りあげることに力を注ぎます。大阪音楽大学にはさまざまなレベルの学生が入学してきます。そして、強烈な個性が集まる環境だからこそ培われる連帯感はとても強いと思います。異質なものが交じり合うととても大きく大きなものが生まれる。大音の音楽専攻・コースにはそんな雰囲気漂っています。これは僕が学生の頃からずっと変わっていない。脈々と受け継がれている「大音歌科魂」でもないべき素晴らしい伝統なのではないでしょうか。



田中由也教授のレッスン風景。レッスン生は大学3年の鈴木麻里さん。スマートフォンをかざすとレッスンの様子を動画で見ることがができます。詳しくはP15をご覧ください



理事長メッセージ

世界に羽ばたく卒業生

理事長 中村 孝義

我々はよく「世界に羽ばたく」という言葉を使いますが、このことが容易ではないことは皆さんもよくご存じでしょう。なにしろ世界には、分野を限っても数え切れないくらいの人材がひしめいており、その中で頭角を現するのは並大抵なことではないからです。しかしそんな難しいことを、本学の少なくない卒業生が果たされているのは本当に誇らしいことです。特に声楽分野の活躍は目覚ましく、ちょっと思い浮かぶだけでも、重松みかさん、松位浩さん、中村恵理さんなどがニューヨーク・シティ・オペラ、ザールラント州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場など、欧米の一級の歌劇場で専属の地位などを得、素晴らしい活動を展開しています。そのご活躍ぶりはネットなどでもすぐに確認できます。

もちろん国内組も負けてはいません。私も大阪や東京で実演に接することが少なくありませんが、竹本節子さん(東京二期会、本学客員教授)、晴雅彦さん(本学准教授)、並河寿美さん(同)、石橋栄実さん(同)、樹貴志さんなどの名前を、新国立劇場やびわ湖ホール、兵庫県立芸術文化センター、いづみホール、東京文化会館、東京日生劇場など、我が国の主要なオペラシーンで目にしないことは滅多にありません。

もちろんベテランから新人まで、ここで挙げきれなかった多くの卒業生の皆さんが、国内外のさまざまな音楽シーンで素晴らしいご活躍を繰り広げておられることは言うまでもありません。「関西で声楽を学ぶなら大音」というのは、これらの事実を見れば決して大げさでないことをおわかりいただけるでしょう。



竹本 節子さん
マラー作品など交響曲や宗教曲の分野で活躍。新国立劇場公演に多数出演。大阪音楽大学客員教授



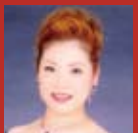
重松 みかさん
ニューヨークを拠点に欧米各国でリサイタルを開くなど活躍中。大阪音楽大学客員教授



晴 雅彦さん
ザクセン州立劇場、ケムニッツ州立歌劇場、新国立劇場、兵庫県立芸術文化センター、びわ湖ホール等に出演。大阪音楽大学准教授



松位 浩さん
ザールラント州立劇場首席バス歌手、オランダ・ルクセンブルク・スイス・オーストリアの劇場でも活躍。大阪音楽大学客員教授



並河 寿美さん
びわこホール、兵庫県立芸術文化センター、東京日生劇場等におけるオペラ作品にソリストとして活躍。大阪音楽大学准教授



樹 貴志さん
新国立劇場オペラ研修生を経てポロニーヤ国立音楽院に留学。新国立劇場公演に多数出演。



中村 恵理さん
英イイェルオペラ所属を経て現在バイエルン州立歌劇場、専属ソリスト、ロンドン・イギリス国立管、N響と共演など欧州を中心に活躍中。



石橋 栄実さん
ケムニッツ州立歌劇場公演で欧州デビュー。新国立劇場、兵庫県立芸術文化センター、いづみホール等の主催公演に多数出演。大阪音楽大学准教授



第67回全国大会(2013年) 斉戸 英美子さん(天学院1年)



第66回全国大会(2012年) 野々村 彩乃さん(大学3年)



第64回全国大会(2010年) 林 佑子さん(13年 院修)

学生コンクールの登竜門「全日本学生音楽コンクール」とは 2013年12月3日に行われた第67回全日本学生音楽コンクール(全国大会)にて、大学院1年の斉戸英美子さんが第1位を受賞しました。昨年には野々村彩乃さんが3年前には林佑子さんがそれぞれ在学中に第1位を獲得しています。このコンクールは1947年に創設。当時は東日本大会と西日本大会をそれぞれ東京、大阪で実施。全国大会は本選で演奏されたものを録音し、AK放送(渋谷のNHK放送センター)とBK放送(NHK大阪放送局)を通じて東西の審査員が審査していました。現在は小・中・高・大学一般(部門によって異なる)を対象に毎日新聞社が主催。世界を舞台に活躍できる若い才能を発掘して音楽文化の向上に寄与する目的で行われ、音楽を志す学生の登竜門的な存在となっています。特にここ数年、大阪音楽大学声楽専攻から多くの全国大会出場者を輩出。高い水準の歌い手を世界に送り出しています。

音楽出身ならではの 練習方法

箕面自由学園に勤務して23年。新任当時、創部されたばかりの吹奏楽部の顧問を務めさせていた。これとになりました。当時まだ十数名しかいなかった部員も、現在は140名の大所帯。全国の吹奏楽関係者の方々と交流させていただくことも多く、嬉しい限りです。

吹奏楽部は誰が見ても「文化系」の部活動で、中には体を動かすこと自体に抵抗のある生徒もいます。でも箕面自由学園の練習は、まずエアロビクスから始まります。テンポは120くらいからゆったりと始めて200くらいまで徐々にアップし心拍数を上げていきます。曲に合わせてジャンプしたり掛け声を入れたり。みんなで一緒に体を動かすことで苦手意識のあった生徒も楽しんで積極的に動いてくれるようになります。ステージに上がるとどうしても緊張してしまふ。そんな状態でも平常心

「音」に対する感覚が 養われたピアノのレッスン

小学校1年生の頃、音楽好きな母親に勧められピアノのレッスンに通うようになりました。当時習っていた先生はとても個性的な教え方をされる方で、音の「感覚」についていろいろ話をしてくださいました。例えばピアノの音を聴いた私に「どんな感じがする?」「どんな色?」と質問される。長調から短調に変わったところでは「なんか暗くなったと思わない?」と言われ、その音の雰囲気に合わせて少し遅いテンポで弾いてみる。音楽から受ける感覚や気持ちを大切にされる先生でした。この時に教わったことは、今私が生徒たちに指導する中で大変役に立っています。先生のおかげでどんどん音楽が好きになっていき、中学、高校の時には吹奏楽部でユーフォニアムやテューバを吹いていました。その頃には顧問の先生の代役で指揮をさせていた。ただ機会もあり、それがまた楽しかったですね。将来は音大に行きたいという気持ちがあったのですが、経済的な理由から両親は大反対。実は大音で作曲を教えておられた田島亘先生が中学時代の友人のお父さんで、私の気持ちを知った田島先生が両親を説得してくださったので

を持って吹けるようにするためのトレーニングでもあります。また、楽器を吹くために必要な瞬発力を鍛えるためにも有効です。私自身は声楽出身ですので練習には合唱も取り入れています。声を出してハーモニーを作り、体を動かしてリズム感を身に付ける。音楽を作る上で必要な練習は、何も楽器を吹くことだけではないと考え、歌を歌ってきた私ならではの独自の練習方法を実践しています。

生徒たちとともに 夢を追い続けたい

箕面自由学園



す。おかげで大音音楽大学に進めることにはなりましたが、楽器を使わないからお金がかからないだろうということ、後に全然そんなことはないこと、知ることになるのですが(笑)。歌うことはもともと好きだったので、受験準備に入ったのはなんと高校3年生の春。イタリア歌曲という存在はその時に初めて知ったという状態でしたし、聴音はテープを買って独学しました。なんとか受験に間に合いましたが、今思えばなんと無謀なことをしていたのか、と恥ずかしい限り。入学してから周りの同級生のレベルの高さ、知識の豊富さを思い知らされることになるのです。が……。

無知からくる羞恥心を 努力で克服

そこまでしてなぜ歌で受験しようと思ったのか。それは自分自身にある種の「変身願望」があったからなのです。それまでの私は恥ずかしがり屋で消極的。人前で話をするのも、ましてや歌ったり演技したりなんてとてもできるような性格ではありませんでした。でもそんな自分をいつか変えたいという気持ちが強かった。そのためにはどうしたらいいか。こ

福里 大輔

箕面自由学園高等学校教諭・吹奏楽部顧問



●ふくざと だいすけ
91年大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業。声楽を山村弘氏に師事。箕面自由学園高等学校に非常勤講師として91年に勤務。2年後、音楽教諭として、再び吹奏楽部顧問として就任し現在に至る。



箕面自由学園高等学校吹奏楽部 「ゴールデンベアーズ」

全日本マーチングコンテスト 2011年、2012年、2013年度出場。3年連続金賞を受賞。2011年日本テレビ「笑ってこらえて〜マーチングの旅〜」に出演し、多くの反響を呼ぶ。定期演奏会、コンクール、地域イベント等、年間約50回のステージに出演。



▶生徒と接する時は構えず喜怒哀楽をはっきり出すことを心がけている。「くやしかったら思い切り泣き、嬉しい時は一緒に泣いて喜びます」

◀大学4年時の音楽学部 オペラ試演会にて「ドン・ジョヴァンニ」のレポレッコ役

信頼する仲間たちと 働ける日々

素晴らしい音色のピアノ——ス
タインウェイ・ジャパンに入社する
ずっと前、学生時代から思っていた
ことです。まさか、その会社で自分
がこうして働くことになるとは全く
予想していませんでした。ピアノが
とりも「縁」を感じる日々です。

全国にあるスタインウェイの
ディーラーさんを通して、お客さま
から「ピアノを買いたい」という注文
が入ります。そこから「在庫の確認」
「輸入通関手続」塗装のチェック依
頼「配送の手配」など、お客さまのも
とに納品されるまでスムーズに段取
りするのが私の担当。商品であるス
タインウェイピアノは海外（ドイツ）
で製作され、船や飛行機で日本に到
着します。12000あるといわれ
るピアノのパーツをそれぞれの工程
で熟練の職人が手がけています。組

ご飯を食べに行ったりもしていま
した。ピアノはどうしても孤独にな
がち。誰かと一緒に何かをすること
に魅力を感じていたのだと思います。
こんなきれいな音を出してみたい！

卒業後は、在学中から続いていた
伴奏や指導のお仕事を約8年続けて
いましたが、ある時それに限界を感
じてしまつて、「ピアノを教えるなら
もっと自分が勉強しなければいけな
い」と思うようになりました。そんな
時にイギリス留学を決意。以前、夏
期講習で短期間イギリスに行った
ことがあったのですが、その時に教
えていただいた先生がとても美しい
ピアノを奏でる方だったので。そ
の時レッスン室に置いてあったのが
スタインウェイのピアノだったこと
も印象的でした。先生に憧れると同
時にピアノにも憧れて。帰国してか
ら東京に住むことになり、留学中に
知り合った友人からスタインウェ
イ・ジャパンの仕事を紹介されまし
た。私にとって「あの時の美しい音
色のピアノ」という強烈な印象があ
り、「ぜひ仕事をしてみたい！」と即
決。まるでスタインウェイの音色が
引き合わせてくれた「縁」のようなも
のを感じてしまいました。実は大音

み立てを含め、約1年かけて完成し
ます。製作に入る前の材料である木
材は約2年は乾燥のため寝かしてお
く必要があるため、トータルすると
1台のピアノが完成するまでに約3
年もの月日を要します。それだけこ
だわりを持って生まれてくるスタ
インウェイのピアノだけに、「スタ
インウェイが欲しい」と指名で買い求
めてくださるお客さまがほとんどで
す。私たちはその気持ちにお応えでき
るよう、細心の注意を払って出荷しな
ければなりません。信頼する技術者
や運送会社の方々と一致団結して仕
事に取り組んでいます。

迷いなく大音に入社

両親が音楽好きで、家には母が
時々弾いていたピアノがありました。
自然な流れで私もピアノを習いに
行っていました。中学に入ると合

唱クラブにも入ります。歌うことが
楽しくなり、将来は歌の道に進むの
もいかなと思いはじめました。でも、
両親からはピアノを勧められ、それ
に従う形で大阪音楽大学のピアノ専
攻を目指しました。私が受験する時
はちょうど大音が推薦入試を始め
た年。高校の音楽コースに通ってい
た私は、推薦入試で入ることができ
ました。それまではいくつかの大学
を検討しましたが、さまざまな音楽
に関する専攻・コースがたくさん集
まっている大音に魅力を感じ、迷い
はなかったです。

木村 由美

スタインウェイ・ジャパン株式会社



**ピアノの音色が
「縁」を運んできてくれました**

時代に師事していた伊藤恭子先生も
大変音色の美しいピアノを弾かれる
先生。「こんなきれいな音を出して
みたい！」と常に憧れの存在でした。

現在は合唱団の伴奏など少しだ
け弾くことも続けていますが、メイ
ンは会社員。もともと人と一緒にな
にかをするのが好きだった私にとっ
ては会社という組織で働くことはと
ても楽しい。それもやはりスタイン
ウェイのピアノの音色があったから
こそ、かもしれません。

私の場合、なにか大きな目標に向
かって努力する、というタイプでは
なく、その時その時に目の前にきた
ことを全力で頑張ってきました。出
会いを大切にできたことでも良い
「縁」をいただいていたような気が
します。「こうなりたい」というゴー
ルを思い描いていなかったとしても、
どんな時もベストを尽くし、決断を
し、行動することで道は開けてくる。
私自身がそうでしたから、これだけ
は自信を持って言えるのです。



▲学生時代の木村さん。ピアノアンサンブルク
ラスの修了演奏会の様子(右側が木村さん)



▶いつもお世話に
なっている運送
会社の皆さんと

◀仕事時の木村さん。
ディーラーさんや
技術者、運送会社
の方など電話で確
認するのがメイン



●きむら ゆみ
大阪音楽大学音楽学部ピアノ専攻
卒。伊藤恭子氏に師事。98年英国トリ
ニティ音楽大学 Postgraduate コース
ピアノ科卒。演奏家ディプロマ取得。
D・ニューボウルド氏に師事。2000年
スタインウェイ・ジャパン株式会社入
社。現在ファイナンス&アドミニスト
レーション所属ロジスティックス担当。





AM9:00

大学院専用の部屋を予約
大学に来たらまず大学院専用の部屋を予約。午前中はアルバイトに行く日もありますが、授業のある日はここで予約しておきます。



AM9:10

朝イチの発声練習
一日の中で初めて声を出すのがこの時間。15分程度ですが、授業やレッスンの準備のためにも声を出しておきたいので毎日の日課にしています。



PM3:15

声楽のレッスン
田中由也先生は声楽のことだけでなく心のケアまでしてください。声を出すだけじゃない、気持ちが一番大切なんだと気づかされるレッスンです。



PM0:45

ランチタイム
昼食は母お手製のお弁当。いつも仕事で忙しい母が毎朝作ってくれます。本当に感謝！ 大学院の友人たちと一緒に食べるのが多いです。



PM5:00

放課後の練習
授業が終わるとほぼ毎日、練習室が使えるギリギリの時間までP号館で練習。のどは使いたくないので加減しながらの練習です。



PM10:00

自宅でピアノの練習
のどへのケアのため、自宅にいる時はマフラーで首元を冷やさないようにします。睡眠時間を確保しなければと思いつつ、つつい夜更かしも。

私のリアル

海外留学の夢を叶えるために

卒業後は海外留学をしたい。そのためにはまだまだたくさんの勉強をする必要があると思っています。その一つが語学。ドイツ語を習いに語学学校へ通ったこともあったのですが、大学の授業やレッスンで忙しくしているうちに通えなくなってしまい、今は中断しています。また少しずつでも勉強を再開し、留学へ向けて準備を進めていきたいです。留学費用を貯めるため、カフェでのアルバイトは長年続けています。私自身もカフェが好きで、時々気分転換に立ち寄ることもあります。



大音生リアル ⑦

大音生のライフスタイルなどありのままをご紹介します。

練習時間 (声楽) 編

今号は大学院でオペラを勉強中の高戸さんが登場。昨年行われた第67回全日本学生音楽コンクールで第1位を受賞した彼女の、練習やレッスンを追いかけてみました。特にのどのケアのため長時間は歌わないように気遣っているという彼女の一日に注目！

ナビゲーター
院1・声楽
高戸 英美子さん



小

学生の頃、「西宮少年合唱団」に入って歌を習ったのきつかけに、歌が大好きになりました。高校生になり、大音出身の合唱団のヴォイストレーナーの方から「声楽のレッスン受けてみないか」と声をかけていただき、本格的に声楽を勉強することに。合唱団が参加したオペラ「ヘンゼルとグレーテル」でオペラへの関心が高まり、そのことが素晴らしい経験になり、歌の道へ進むことを決意しました。大学4年間はまだまだ足りないと思いい、現在は大学院で勉強中。歌う時間も一段と増え、充実した学生生活を送っています。

Column

「学生オペラ」に出演

「オペラ研究」(院・大専)「オペラ実習」(学部)を受講の学生の中からキャストを選抜し、毎年2月に2日間にかけてザ・カレッジ・オペラハウスで行っている「学生オペラ」。スタッフは公募し、演奏も大阪音楽大学管弦楽団が生演奏します。今年2月15日、16日に行われた学生オペラの演目はW.A.モーツァルトの「魔笛」。その中で高戸さんは15日にクナーベI役で出演しました。「今回で3回目の学生オペラ。音楽はやっぱり1人ではできない、周りの皆さまのサポートがあつての公演だということにあらためて感じました。このことに感謝し、これからも精進してまいります」
なお、P8のConcertReportに掲載している写真をスマートフォンにかざすと当日の公演の様子が動画で見ることが出来ます。



Concert Report

注目の演奏会や公演の様子を紹介します。

2013年12月7日(土)ザ・シンフォニーホール 大阪音楽大学 第56回 定期演奏会

2015年に迎える100周年に向けた「創立100周年記念プロジェクト」の3年目。工藤重典客員教授をソリストに迎え、尾高尚忠作曲「フルート協奏曲 作品30b」を演奏。ほかにはR.ヴァーグナー「歌劇『リエンツィ』序曲」、D.ショスタコーヴィチ「交響曲 第5番 二短調 作品47」を熱演。学生たちが日頃の成果を存分に披露しました。



▲指揮は小田野宏之特任教授



▲ソリストの工藤重典客員教授

2014年2月15日(土)・16日(日)ザ・カレッジ・オペラハウス

第25回 大阪音楽大学学生オペラ W.A.モーツァルト「魔笛」(全2幕・原語(ドイツ語)上演・字幕付)

小田野宏之特任教授指揮、中村敬一客員教授の演出。大学院、大学専攻科、大学の学生によるキャストと管弦楽団、合唱団によるこのステージは2日間にわたって行われ、ザ・カレッジ・オペラハウスは大盛況となりました。



2013年11月29日(金)ミレニアムホール

第36回 邦楽演奏会

邦楽専攻・コース学生と教員による演奏会。江戸時代に作曲され、宮城道雄が編曲した「編曲八千代獅子」でスタート。ラストの「子供のための組曲」では総勢14人の奏者による大合奏を披露しました。



2014年1月25日(土)サンケイホールブリーゼ

2013年度大阪音楽大学短期大学部 ポピュラーコース・コンサート

オープニングには3校の高校生が息の合った素晴らしい演奏を披露してくれました。ラストナンバー「Stand Up For Love」では専攻科生と2年生全員が加わり圧巻のコーラスを披露しました。



2014年1月12日(日)ザ・カレッジ・オペラハウス

2013年度大阪音楽大学短期大学部 電子オルガンコース・コンサート 「フライング・ライブ2014」

ソロ、アンサンブルにドラムを加え、さまざまな形態で演奏。ラスト2曲は、出演者全員による7台の電子オルガンが大迫力のアンサンブルを繰り広げました。



2014年2月14日(金)

豊中市立ローズ文化ホール 大阪音楽大学短期大学部 ダンスパフォーマンスコース 第1回発表会

第1部は日本舞踊、第2部はクラシックバレエとモダンダンス、第3部はジャズダンスとバラエティに富んださまざまなダンスを披露。在学学生7名と卒業生5名による趣向を凝らしたステージパフォーマンスと、次々に変わる衣装も見ごたえたっぷりの盛りだくさんな舞台となりました。



2014年2月20日(木)ミレニアムホール

2013年度大阪音楽大学短期大学部 ミュージカルコース 第3回試演会

脚本・作詞・演出を羽鳥三実広教授、音楽監督・楽曲構成・編曲・歌唱指導を松田ひろ子講師が手掛けたオリジナル作品。2回の公演ともに会場は立ち見が出るほど大勢のお客さまが詰めかけました。



2014年2月13日(木)ミレニアムホール

2013年度 大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジャズ・コンサート

第1部のコンボでは3~6人編成で4組が演奏。第2部ではアメリカの作曲家、Sammy Nesticoナンバーで構成されたプログラム。迫力のビッグバンドでアンコールを含め全8曲を演奏しました。



イベント お知らせ

第47回音楽会 ニューイヤークンサート開催

1月13日(月)祝「ザ・カレッジ」オペラハウスにて音楽会コンサートを開催しました。会場は満席。田中勉教授の司会進行で和やかな雰囲気です。スタートしました。第1部は昨年好評を得たオーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットが2人ずつとコントラバスという編成の「ハルモニウムジーク」。第2部は恒例となった「オペラ・ガラ」で6人の出演者により、オペラの名曲を披露しました。最



▲第1部のハルモニウムジーク



▲ラストは「オペラ・ガラ」出演者全員が舞台上

後は出演者と客席全員で「ふるさと」を歌い、大盛況のなか幕を閉じました。

ミス日本 ミス着物 ミュージカル・コースの尾崎優子さん

ミュージカル・コース2年の尾崎優子さんが「2014年度ミス日本」の「ミス着物」に選ばれました。幼い頃から女優を目指していたという彼女はミュージカルを学びながらさまざまなオーディションなどに挑戦。このたびの受賞となりました。

「着物はまだ3回しか着たことがなく、自分でも驚いてしまいました。家族も喜んでくれてとても嬉しい。受賞後は地元長崎のランタンフェスティバルや東京高幡不動尊の節分イベントなどに出演させていただき、充実した日々を送っています。まもなく卒業ですが、女優になりたいという夢に向かって努力していきたいと思っています。」



高幡不動尊での豆まきの様子

管打楽器学生が GIファンファーレを演奏

12月8日(日)に行われた、日本中央競馬会 第65回農林水産省賞典「阪神ジュベナイルフィリーズ(GI)」の発走直前ファンファーレを本学の管打楽器学生が演奏しました。緊張感が高まる中、息の合った演奏に会場からは大歓声と拍手がわき起こりました。ファンファーレを演奏した当日の様相を動画でご覧いただけます。

画をご覧ください。スマートフォンを下記の写真にかざしてみてください。詳しくはP15をご覧ください。



▲アプリ(無料)のダウンロードが必要です(協力:グリーンチャンネル)

寝屋川市との包括協定締結 ミュージカル「寝屋のはちかづき」公演

12月18日、学校法人大阪音楽大学は寝屋川市と包括連携協定を締結しました。音楽による文化振興をはじめ、さまざまな分野における協働を進めることで相互の発展を目指します。

寝屋川市には市内に1,000年以上も前から伝わる民話「はちかづき姫」があります。その民話を題材にした市で初となる本格ミュージカル「寝屋のはちかづき」を2月1日にアルカスホールにて午前午後2回の公演を行いました。構成・演出を羽鳥三実広教授が、音楽を森本友紀講師が担当。ミュージカル・コース在生も5人がキャストとして加わり、卒業生も多く参加しました。一般公演以外にも寝屋川市内の24カ所の小学4年生200人を対象に公演を行い、全10公演は大盛況のうちに終了しました。



▲はつせ役の上畑藍子さん、実高役の細井康太さん、照美役の脇田真里さんはともに卒業生

吹奏楽を学びたい人注目! 吹奏楽フェスティバル2014を開催

昨年開催し、大好評だった「吹奏楽フェスティバル」を6月1日(日)に行います。在学生による「全日本吹奏楽コンクール」課題曲の全曲演奏と充実した指導者陣によるワンポイントアドバイスや楽器別基本奏法アドバイス、公開講座など吹奏楽を楽しめるイベントが盛りだくさんです。吹奏楽部員や指導者の方はもちろん「吹奏楽が好き」「興味がある」という方なら参加OK。費用は無料です。詳しくは大学HPをご覧ください。



▲昨年の「パート別アドバイス」の様子

Tutti2014 喜歌劇「天国と地獄」を公演

すべてを学生だけで創り上げるオペラ公演「Tutti2014」を今年も5月11日(日)にザ・カレッジ・オペラハウスで行います(開場16時・開演17時)。

今年の演目はJ・オッフェンバック作曲の喜歌劇「天国と地獄」。3月現在オーケストラ練習も始まりよいよ本格的に準備に入っています。入場料は500円。チケットの入手方法はメール tutti2014.ticket@yaho.co.jp か電話 080-1478-6775 (制作補助・島田へご連絡いただきましたらお伝えします)。



▲Tutti2014制作塚本 晃嘉さん(大3・声楽)

今年度の公演は、まるで自宅の部屋にいるような落ち着いた雰囲気です。防音もしっかりしているのに防音室特有のゴツゴツした感じもなく、白い壁とリビングのような天井も気に入っています。レッスンはじめ、自分の練習もこの部屋ですることが多いのでありがたいですね。



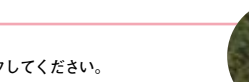
▲落ち着いた雰囲気の室内



▲木曜日担当のインテーカー、土井善深先生

学生生活を送る上で起こるさまざまな悩み。誰かに相談したいけどできない人がいる。など一人でも思いつめず、ぜひ「学生相談室」を利用してみてくだ

大きい。今年1月より場所が変わりリニューアルしました。室内にはゆったりとくつろいでいただけるスペースやお弁当などを食べていただけるブースも設置。授業やレッスンの合間にホッとしたい時、保健室に行くほどではないけれど、人目を気にせず休みたい時など気軽に利用してください。場所はA号館1階奥です。利用時間は月、火、木曜の12時~18時。

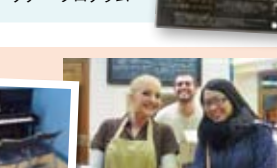


▲授業前の廊下は学生でいっぱい

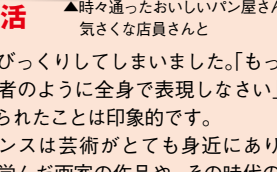


▲実は大の動物好き。「犬と一緒に楽しめるコンサート」が夢

「今できることをやりたい」と毎年リサイタルを開催。昨年は「ワグネリアン(ワグナー好きの人のこと)の私らしくオール「ワグナー」プログラム



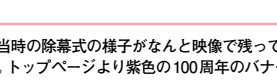
▲時々通ったおいしいパン屋さんの気さくな店員さんと



▲授業前の廊下は学生でいっぱい

フランスは芸術がとても身近にあり、授業で学んだ画家の作品や、その時代の絵画、建物などを美術館や教会でよく気軽に見ることができます。学生でも本物の芸術に触れられるよう、26歳以下は無料で美術館に入れることもフランスならではの魅力だと思いました。

将来は、今まで私が培ってきた教養や経験を生かして指導者になりたいと思っています。自分の中にたくさん引き出しを作り、それを多くの人たちに伝えていきたいです。



▲授業前の廊下は学生でいっぱい

研究室訪問

普段はなかなか入ることのできない先生の研究室にお邪魔します!

今回お訪ねしたのは……
土井 緑 准教授
(担当科目:ピアノ実技、ピアノ演奏法、ピアノアンサンブル、ピアノ教授法、ピアノ演習)D号館312号室

ピアノとの出会いはいつでも「一期一会」

D号館のこの部屋は、まるで自宅の部屋にいるような落ち着いた雰囲気です。防音もしっかりしているのに防音室特有のゴツゴツした感じもなく、白い壁とリビングのような天井も気に入っています。レッスンはじめ、自分の練習もこの部屋ですることが多いのでありがたいですね。

ピアノを弾くことはもちろん、楽器そのものが好き。細部に至るまでこだわってしまいます。例えば黒鍵の形。削られた面の大きさ、角度、丸みや手触りなど。音色だけでなく、そんな細かい部分が演奏者にとっては意外に気になるところなのです。いざピアノを買うとなったら、選ぶのには相当な時間がかかります。気の済むまで弾いて弾いて……気がついたら5時間も経っていた! なんて経験も(笑)。楽器屋さんには迷惑だったかも

Daion Report

海外見聞録~海外体験をお送りします。

青木 香奈さん(大4・ピアノ)

“本物の芸術”が身近なフランスでの生活

フランスのプロ・ニュー・ビヤンクールにあるコンセルバトワールに5ヵ月間留学しました。この学校は、私が高校生の時に通ったことのある学校。大学に進学する際、大音の提携校であることを知り、いつか必ず戻ってこようと思っていました。

大学生生活最後の今年、高校生の時と比べて自分がどれだけ変わったかを確かめたい! 今だからこそ感じることや学べることを身に付け、さらに音楽を深め、高めたいと思いつきました。

まず驚いたことは、練習室にパイプ椅子しかなかったこと。今まで自分がどれだけ設備の整った、恵まれた環境にいたかに気づかされました。レッスンや授業では日本以上により表現力が求められると感じました。「生徒のような演奏をしている」と指摘された時は衝撃を受け

ひとこと Muse (右ページから続き) その胸像が建てられた1958年当時の除幕式の様子がなんと映像で残っています。大学HP上にUPしていますのでご覧ください。トップページより紫色の100周年のバナーをクリックしてください。



▲授業前の廊下は学生でいっぱい

ひとこと Muse 正門に入って目の前に設置している大阪音楽大学創設者・永井幸次先生の胸像。このたび修復作業が完了しました。1958年、四年制大学開設を祝う記念祭の一環として、第43回創立記念日に建てられてから実に56年ぶりに美しく生まれ変わりました。ぜひご覧ください。(左ページへ続く)

▲授業前の廊下は学生でいっぱい

祝! コンクール受賞

各種コンクールで受賞された皆さんの喜びの声をご紹介

第2回日本のうたコンクール2013
声楽部門 第2位、大阪市長賞
2013年8月25日(イシハラホール)

「日本歌曲が好き」というだけでエントリーをしましたが、多くの方に応援をいただき、このような結果を得られたことにホッとしております。細く長く歌ってこられたことに感謝と誇りを持ち、これからも歩んでいきます。



田中 恵津子
(82年・大卒・声楽)

第7回神戸新人音楽賞コンクール
管弦打楽器部門 優秀賞
2013年9月18日(神戸文化ホール中ホール)

卒業試験で演奏した大好きな曲を演奏しました。なかなか自分らしい演奏ができず悩んでいましたが、今回このような賞を受賞でき、自信につながりました。



稲川 はるか
(13年・大卒・打楽器)

2013 光州国際音楽コンクール
ピアノ部門シニアの部 第3位
2013年9月27日(ウモアートホール(韓国))

このコンクールは、韓国南西部の中心都市光州で開催されました。初めて受ける海外のコンクールだったので不安もありましたが、本番は楽しんで演奏することができ、さらにこのような結果につながりとても嬉しく思います。



南 絢子
(大1・ピアノ)

第14回大阪国際音楽コンクール
声楽部門 Age-U オペラコース 第3位
2013年10月13日(高槻現代劇場中ホール)

このコンクールは2年生の時も出ましたが、入賞することができず悔しい思いをしました。4年生になり、再挑戦して3位(日本人最高位)を頂いたのは荒田先生や応援してくれる家族や周りの人のおかげです。本当に感謝しています。



梨谷 桃子
(大4・声楽)

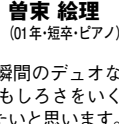
第19回みえ音楽コンクール
ピアノ部門デュオAの部 金賞
2013年10月13日(三重県文化会館)

今回の受賞は、卒業後もただ好きで楽しめたいという思いで続けてきた甲斐あって、本番も純粋に音楽を楽しむことができたからだと思っています。今後は指導者として、子どもたちに「継続は力なり」ということを自分の姿勢を通して伝えていきたいと思っています。

約10年ぶりにデュオを復活させた私たちですが、あの独特の緊張感をずいぶん久しぶりに味わった昨年のコンクール。2人の息が驚くほどぴったりと合った瞬間のデュオならではの感動とおもしろさをいくつになっても続けたいと思います。



南 奈美恵
(02年・短卒・ピアノ)



曾束 絵理
(01年・短卒・ピアノ)

第5回東京国際声楽コンクール
大学生部門 第3位
2013年10月13日(イタリヤ会館)

このたびはこのような賞を頂けて大変嬉しく光栄に思います! とにかく落ち着いて、ベストな発声と丁寧に発音することを心がけながら演奏しました。ここまで技術的、精神的に導いてくださった荒田先生には本当に感謝しております。



松田 香奈子
(大4・声楽)

第23回クラシック音楽コンクール地区本選
一般部門 声楽の部 優秀賞
2013年10月13日(奈良百年会館)

このようなコンクールで、賞を頂き大変光栄に思います。本番は、楽しく演奏することができたのでよかったです。まだまだ未熟者ですが、これからも音楽活動により深く励んでいきます。



足立 悠紀
(13年・大卒・声楽)

第14回大阪国際音楽コンクール
管楽器部門金管Age-U 第3位
2013年10月14日(神戸朝日ホール)

2年生になって初めてのコンクール。本選ファイナルではものすごく緊張してしまいましたが、3位(1・2位なし)を受賞できとても嬉しく思います。次もまた、成果が形に残るように頑張りたいと思います。



橘田 達郎
(大2・トロンボーン)

第43回フランス音楽コンクール
声楽の部 第2位、関西賞、エールフランス賞、フランス総領事賞
2013年11月10日(関西ピアノ専門学校)

フランスで勉強してからしばらくたちますが、今回フランスの歌曲とアリアでチャレンジしてみました。第2位に入賞できて嬉しいです。今後もしっかりフランス音楽を広めていけるように勉強していきたいです。



吉永 裕恵
(96年・大専修・声楽)

第7回ベートーヴェン音楽コンクール全国大会
自由曲部門一般AIの部 第1位
2013年12月19日(すみだトリフォニーホール小ホール)

まだまだ舞台上で思うように表現するのは難しく感じましたが、勉強してきたことがこのような形で評価され大変嬉しく思います。これを励みに、これからも仕事と演奏活動を両立させながら、日々努力していきたいです。



金子 剛
(10年・大卒・ピアノ)

Topics 活躍する卒業生

音楽座ミュージカル「ラブ・レター」に出演
松尾恵理さん(2010年大卒・声楽)、宮地奈々子さん(2013年短卒・ミュージカル)、福田茜さん(2013年大卒・声楽)

88年に旗揚げし、オリジナリティを追及した多くの作品を上演してきた音楽座ミュージカル。昨年11月から12月にかけて行った公演「ラブ・レター」は、浅田次郎氏原作「ラブ・レター」の舞台である93年の新宿と、震災直後の東北が交錯した物語。この舞台には卒業生の松尾恵理さん、宮地奈々子さん、福田茜さんが出演されました。「死者が生者を励ます内容であるこの作品は、3.11以降初となるオリジナル作品。私も出演していて心を打つセリフに思わず涙が出そうになりました。この作品に出演できたことでひと回り成長できたように思います(宮地)」。



退任教員 挨拶

3月をもって退任される先生方からメッセージをいただきました

教職

学生と会わない毎日は想像できません
大前 哲彦教授

29歳の時に着任し、39年間の任を終えることになる。長い休暇の終盤の頃になると、無性に学生たちに会いたくなる自分を思い返すと、学生と会わずに過ごす毎日が想像できない。自分がいかに多くのエネルギーを学生たちからもらってきたことかと思ひ返し、その喪失を思い知らされている。寂しくなったら時々訪ねさせていただき、元気をもらいたいと考えていたが、幸い卒業生による障害児音楽教育研究会が再開され、私も顧問として参加を求められているので安心している。これからは、音楽療法士を国家資格にすること、田舎に音楽療法と園芸療法の拠点をつくる夢の実現を目指したい。また、非常勤講師として関西学院大学で生涯学習概論と社会教育概論を、奈良教育大学で教育調査法を、武庫川女子大学で音楽療法研究法の講義を引き続き担当させていただくことになっているので、少し余裕を持って残された課題に取り組んでいきたい。それでは、長きにわたる親交に感謝し、本学の発展を念願して退任のご挨拶にさせていただきます。



ひとこと Muse

「Muse」3月号はいかがでしたか? ご意見ご感想などお寄せください。在学生、卒業生の皆さんはぜひそのご活躍をお知らせください。表紙に出てみたい学生さんもメール(muse@daion.ac.jp)または直接広報室(A号館1階奥)までお気軽にお越しください!

声楽

歌うことは生きる証
林 誠教授

日管製クラリネットを抱えて受験講座を受けてより半世紀。このたび第1回永年勤務表彰の栄に浴しました。この半世紀を振り返り、僕を変えた出来事を2つ。1つは3年生の時。ドン・ジョヴァンニのオーディションでオペラを総括されていた故朝比奈隆先生との出会い。音価に対する厳しいしつけは、デビュー後の小澤征爾はじめ多くの指揮者との仕事が愉快なものになる礎となりました。もう1つは、阪神淡路と東日本の大震災。大自然の営みと命について考えさせられ、音楽する意味を問いました。僕は今、東北支援活動の中で「真に喜びに満ちた音楽空間とは」という難問に回答を得つつあり、歌うことが生きる証となっています。音楽の道を志す若者諸君! 音楽を人生の友とできた者は幸せであると心底伝えたい。僕のこれからの仕事は、君たちのプラットホーム作りです。最後に、教職員の皆さま、大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

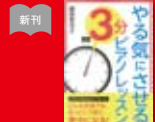


NEWリリース 大音関係者がリリースしたCD・本・楽譜などをご紹介



大森 香奈(07年院修・打楽器)
カブリッチョ・グラツィオオーソ
2800円(税込)
amazon、タワーレコード大阪マルビル店

2 枚目のアルバムが完成しました。マリンバ界の巨匠のゴードン・スタウト先生からいただいた曲をはじめ、世界各国の優れた作曲家の方々から作曲していただいた新曲ばかりを集めたアルバムです。どの曲にも作曲者と私の思いがたくさん詰まっているアルバムなので、多くの方々に聴いていただけたら嬉しいです。



植田 恵理子(83年大卒・声楽)
やる気にさせる3分ピアノレッスン
1600円(税抜)
全国の楽器店、amazon

生徒が夢中になってやる気を出し、主体的に取り組んでくれたら、限られたレッスン時間内でも知識や技術は無理なく定着することが可能です。この本では、レッスン中によく見られる生徒の困った態度や癖の対処法を53のアプローチから紹介。私が長年書いてきた生徒メモを元にした、楽しみながら、笑いながら弱点を矯正できる方法が満載です。

ひとこと Muse

コンクールで受賞された方はキャリア支援センターへお知らせください。卒業生も対象です。賞状のコピーと写真をお持ちください。3位までに入賞の方は「Muse」誌上でご紹介させていただきます。

文・イラスト 武藤 好男

思い煩うことなかれ、 明日は明日の風が吹く

「幸せ」って何だろう。寒さに震えているときの一杯の温かいスープ？ 宝くじで億円が当たったとき？ だったら人はなぜ、寒さに震えながら冬山に登るのだろう。エベレストに初登頂したヒラリー卿が言うように、「そこに山があるから」なんだろう。億円なんて突然手にしたらロクな人生送れないよな、と考えるのは私だけでしょうか。

人間という動物だけが未来について考えます。「こうなったらいい」「あんなったら困るな」と予測して、幸せになるために一番いい選択をしたはずなのに、それが実現するとそれほどでもなかったり、「何であんな決断をしたのだろう」と悔やんだりします。要は望んでいるものが手に入るまでのプロセスが楽しいのであって、それを手にしたときの満足がずっと続くとは限りません。そうでなければ「断捨離」が必要なほど部屋に物があふれているわけがありません（「ワァ、カワイイー!」と思ったとき、冷静な判断力はどこかに吹っ飛んでしまって、レジに並んでいたります）。

話が急に現実的になりましたが、私たちの心は、危機的な状況に陥ったとき、何とか希望を見出そうとします。悲

惨な出来事は、それを経験した人の心に甚大な消し難い影響をおよぼすと考えがちですが、多くの方は心的外傷に対して驚くほどの回復力を持っているそうです。そして、その苦難を乗り越えた人はほとんど、その経験により人生が深まり、生きることの幸せを感じるという報告もあります。癌を宣告された人が、一時はとても落ち込みますが、残された人生をより充実したものにしようと努力し、明るく生きるというケースも考えられます。幸せを感じる方の問題だとすれば「良い悪いは当人の考え一つ、どうにでもなるものさ」（シェイクスピア『ハムレット』）です。私はといえば、たとえ煙草をやめて2・3年寿命が延びたところで、その2・3年が幸せかどうかなんて怪しいもの、どうせみんないつかは死ぬのだから、というスタンス。明日のことをどんなに思い悩んだところで、未来は決して思い通りにはなりません。幸せはまさに「青い鳥」、どこか別世界にあるわけでは



幸せを呼ぶ夢「富士鷹三茄子」
（半世紀ぶりにコンパスを使いました）

きむら ひろまさ ● 日本管打コンクール入選、世界ユーフォニアムチューバカンファレンス独奏コンクール第2位。ジャズバンドスコレクションメンバー、ユーフォニアムユニット「フェニックス」音楽監督。「ハーレクイン」他、5タイトルのソロアルバムをリリース。

弾き手によって味わいが変わる！ うどんも演奏も「心」が大切

ユーフォニアム・准教授 木村 寛仁

教員
リレー
エッセイ
Vol.11

次号は管楽器の
若手ホープ！
池田 重一先生(ホルン)に
お願いします



うどんの話を少し。
最近はやや下火ですが「讃岐うどんブーム」に乗っかって、たびたび四国へ行きます。2日間で10軒は巡ります。定番の「山越」はこの工場長は元プロのユーフォ吹きです。「あたりや」「山内」なむら「谷川米穀店」「長田」「長田in香の香」……。気になるお店は尽きません。お土産、通販なら「日の出製麺所」、大音の近くにも営業所のある「石丸製麺」が秀逸。ただし、時間があるなら自分で打つうどんをぜひ。うどんの打ち方サイトも多数あり参考になります（小麦粉の良いものが手に入れば。思ったより簡単ですぐできます。ただし「鎌田醤油」のうどんがおススメ。

▶オススメ！
鎌田醤油の
うどんだし



オススメの一つ、これが「あたりや」のひやあつ

はだしの味の差くらい。ただ、えらいもんですね通ううちに「あらつ、なんかちゃうなあ」と。その瞬間、ちよっと大げさですけど、麺の中に強さや情熱、愛情や繊細さ、しなやかさや細かい計算など、作り手のおっちゃん「心」に触れた感じがしました。
どんぶりの中のうどん。ラーメンや天婦羅そばのように華やかではありませんが、後を引く「妙味」があります。同じような見た目ですがちゃんと個性が光っています。同じ曲でも弾き手の違いで異なった趣きを発見したり、定番の表現の中に「個」が見える瞬間があるでしょう。まさに弾き手の心遣いに触れる醍醐味！ 昨年の知命を迎えた今、そんな演奏がしたいなあ、と思いつく頃です。